

学生大使 実施報告書

氏名：宮入沙絵

学部・学科(コース)・学年：医学部医学科1年

派遣先大学：ガジャマダ大学

派遣期間：2025年2月26日～3月12日

1 日本語教室での活動内容

日本語クラスは午前と午後の2回あり、30人程度の学生が参加していた。最初は山大生の中で役割分担を決めていなかったため、授業を始めるときのグループ分けに時間がかかってしまったが、山大生の中で教える内容の分担を決めておくことで解決した。私はひらがなを教える担当になったため、主にひらがなを教えていた。初心者には一緒にひらがなを書く練習をして、中級者には英語の単語や短文をひらがなに変換する練習を行った。上級者には自己紹介や趣味について作文してもらった。ガジャマダ大学の学生は50音の発音を理解している人が多く、知らない単語でもローマ字で読み方を教えるとひらがなに変換できていたため、初心者でも授業の後半には文章を書けるようになっていた。一回の授業では3～5人の学生を担当することが多かったが、学生の中でもレベルに違いがあり、進度が遅い人のフォローをしながら、進度の早い人が暇にならないように配慮することが難しかった。

また、日本語クラスの授業時間を用いて日本の折り紙やけん玉、習字などを体験してもらう文化交流会も行った。私は習字を担当したが、多くの学生が興味を持ってくれて嬉しかった。

日本語教室の活動については渡航前に分かっていることが少ないので現地についてから臨機応変にやり方を工夫していく必要があると思う。受講者の中にはかなり日本語のレベルが高い人もいたため、助詞など文法の理解や日本の話のネタを考えておく必要がある。また、ひらがなを教える上で大きめの50音表やホワイトボードが役に立った。

2 日本語教室以外での交流活動

平日の授業後にはスーパーやショッピングモールに買い物に出かけたり、一緒に夕飯を食べに行ったりした。スーパーは現地の雰囲気を感じられて楽しかった。インドネシアはフルーツが巨大であったが、特にアボガドは日本の2から3倍の大きさがあって驚いた。また、日本では野菜として食べられているものがインドネシアではフルーツとして食べられていると教えてもらい、同じものでも食べ方が異なるのだと感心した。

休日はボロブドゥール遺跡や海、動物園などに連れて行ってもらった。インドネシアの伝統舞踊を見た際にはどのような内容の劇なのかを現地の学生が解説してくれたのだが、現地の学生は良く物語の内容を知っていて、自国の文化に対する誇りを感じた。インドネシアというとイスラム教のイメージがあったが、歴史的には仏教やヒンドゥー教の影響を受けていたということが分かった。

他にも現地の病院に行ったことも心に残っている。私は渡航中に発熱してしまい、現地の学生に大学近くの病院に連れて行ってもらった。インドネシアでは看護師の方に診てもらってから医師に診察されるので、日本とは診察のシステムが若干異なっていて興味深かった。海外の病院にかかることはな

かなかないので、貴重な経験をできたと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

本プログラムに参加するにあたって主に2つ目標があった。一つ目は自身の価値観を広げることだ。この目標はおおむね達成できたと思う。私は今回初めて海外に行ったため、空港の入国審査から、海外での生活まで、初めてのことが多くあった。そのような中でも一人でプログラムに参加しきったことは自信につながったと思う。また、インドネシアはイスラム教を信仰する人が多いが、皆生活の一部としてお祈りや断食を行っていた。私は今までイスラム教は厳格なものだと思っていたが、現地のの人にとっては当たり前のように宗教が生活の一部としてあり、私たちとそこまで変わらないのだと感じた。

二つ目は様々な知り合いを作ることである。私は普段同じ学部の人と関わる機会が多くなってしまうが、学生大使は様々な学部の人からなっていて他学部の人と関わる良い機会であった。また、同年代の他国の学生と交流できたのも大きかったと思う。ガジャマダ大学の学生は、意欲的に学習している人が多く、日本語クラスで教えた内容をすぐに自分のものにできていると感じた。自分も積極的に学習する姿勢を見習いたいと思った。

4 プログラムに参加した感想

プログラムの参加を通してインドネシアの方々の温かさに触れることができた。ガジャマダ大学の学生は授業後に写真を撮ってくれたり、連絡先を交換してくれたりして、とても友好的であった。また、インドネシア人は盛り上がる時は存分に楽しむ人が多く、バスの中でのカラオケやショッピングモールで行ったカラオケでとても盛り上がっていたのが印象的であった。

本プログラムを通して、母語ではない英語で会話したり、積極的に現地の学生と話したりすることができ、自分の可能性が少し広がったと感じた。2週間の間、貴重な経験をさせていただき、バディーの学生や学生大使の仲間をはじめ、関わってくれたすべての人に感謝したい。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回インドネシアに行って他国の文化や歴史に興味を持つようになった。今後は本を読むなどして、アジアの歴史や宗教的な背景について勉強してみたいと思った。また、インドネシア語について全く知らなかったなので、これを機にインドネシア語や他の言語についても勉強しつつ、様々な国の人と交流できるように英語の勉強も頑張りたい。

今回のプログラムへの参加を通して、海外のような全く知らない環境でも意外とうまくやっていけるものだという自信がついたので、研究や大学の他のプログラムなどにも積極的に挑戦するようにしたい。

6 現地での活動写真

写真1

日本語クラスの文化交流



写真2

ボロブドゥール遺跡



写真 3

学食のごはん



写真 4

現地のスーパー

